

世界中で活躍する住友の林業機械。



北米と南米は LINK-BELT ブランドで展開



KESLA Stroke Harvester
SH 75X-6A 20SHmkII

KESLA Stroke Harvester
SH 135X-6 25SHmkII

SHINYU BACK NUMBER



森友 vol.08
吉小牧バイオマス発電
株式会社 / 北海道
SH250-6MH
株式会社
レンタルのニッケン / 東京都
株式会社 ヨシカワ / 石川県
八頭中央森林組合 / 鳥取県
SH75X-6A
丸和林業グループ
山陰丸和林業株式会社 / 京都府
SH135X-6



森友 vol.07
齊藤重興業 / 北海道
SH135X-6
気仙地方森林組合 / 岩手県
SH120-5
小田原緑化開発 / 群馬県
SH135X-6
白川町森林組合 / 岐阜県
SH135X-3B
丹波市森林組合 / 兵庫県
SH75X-3B
山陽商事 / 岡山県
SH125X-3
宮崎森林発電所 / 宮崎県
SH120-5



森友 vol.06
五島森林組合 / 長崎県
SH135X-3B
四万十町森林組合 / 高知県
SH75X-3B
飛騨高山森林組合 / 岐阜県
SH120-5



森友 vol.05
グリーン・シャイン / 鳥取県
SH75X-3B
秋田グリーンサービス / 秋田県
SH75X-3B
つがる森林組合 / 青森県
SH135X-3B



森友 vol.04
山崎木材 / 広島県
SH135-3B
美山町森林組合 / 福井県
SH135X-3B
群馬県森林組合連合会 / 群馬県
SH120LC-5SM
北海道ニッタ / 北海道
SH135X-3B



森友 vol.03
上野物産 / 鹿児島県
SH75X-3B
長門市伊藤森林組合 / 滋賀県
SH135X-3
神子沢林業 / 山梨県
SH120-3
木材商秋田林業 / 徳島県
SH120-5
竹田木材 / 石川県
SH135X-3B
よつばフォレスト / 浅野産業 / 北海道
SH135X-3B



森友 vol.02
清瀬林業 / 高知県
SH75X-3
松原地区木材協同組合 / 三重県
SH135-3B
秋文広域森林組合 / 埼玉県
SH75X-3B
西垣林業 / 奈良県
SH200LC-5SM
日和田林産 / 岐阜県
SH135X-3
三井物産フォレスト / 北海道
SH120-3



森友 vol.01
萬造寺林業 / 鹿児島県
SH135X-3
美山村森林組合 / 和歌山県
SH75X-3B
三次地方森林組合 / 広島県
SH75X-3
二和木材 / 岩手県
SH120-3



住友建機株式会社

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1(ThinkPark Tower) ☎ 03-6737-2600
ホームページアドレス <http://www.sumitomokenki.co.jp>

森友

SHINYU
vol.09

CONTENTS



オホーツクバイオエナジー株式会社
北海道
SH135X-6 グラッブル



雄勝広域森林組合
秋田県
SH135X-6 Woody



田中林業 株式会社
東京都
SH75X-6A KESLA20SH



株式会社 守岡林産
広島県
SH135X-6 KETO



株式会社 高知官材
高知県
SH135X-6 KESLA25SH

林業現場レポート
北海道からの今をお届けします。



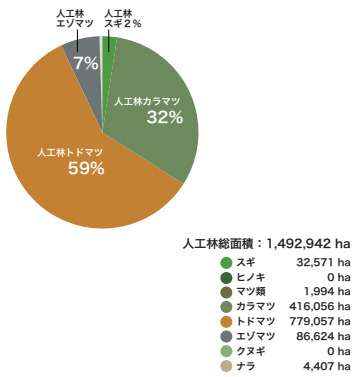
山東 正典 代表取締役社長

オホーツクバイオエナジー株式会社

住所：北海道紋別市新港町4丁目6番地
電話：0158-23-1191
設立：平成25年



紋別バイオマス発電所（住友重機械工業株製）



北海道の樹種別計画対象森林面積割合
林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る目的として平成24年度に実施した「森林資源調査調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成24年3月31日現在）
引用元：林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>



SH135X-6 グラッブル

オホーツクバイオエナジー株式会社は、北緯44度オホーツクからの流水が港に接岸することで知られる紋別市に、住友林業51%住友共同電力49%の共同出資で平成25年に設立された会社である。同時期同比率出資で紋別バイオマス発電株式会社も設立され発電部門を担当し、オホーツクバイオエナジー株式会社は、隣接する発電所に木質燃料を100%供給する燃料チップ製造を目的として設立された。住友林業の社有林がある紋別市をはじめとする道東の地域から集荷された間伐材や未利用材などの木質燃料を主燃料とし、輸入PKS材や補助燃料として石炭を使用したバイオマス発電所の発電規模は50,000KW。国産材を燃料利用するバイオマス発電所としては、国内最大級の規模である。計画使用量として木質チップは年間約21万8千トン、PKS材、石炭はそれぞれ約5万トンが見込まれている。発

電所の建設には2年の月日を要し平成28年11月に竣工。同年12月から営業運転を開始している。発電した電気は、当面20年間は再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）を活用して、北海道電力他に売電する。厳寒期には最低気温がマイナス15℃を下回るという厳しい環境下でのご苦労などを含めて、山東正典代表取締役役話をお聞きした。

「私にとって紋別はまったく見ず知らずの町で、平成26年の2月に赴任してきた時、見渡すかぎりの銀世界で、人の歩く姿もなく、この先どうなるのかと不安もありました。ただ、この地に住み始め地元の方々と会う機会に、以前紋別市鴻之舞に住友金属鉱山の金の鉱山があり町は非常に栄えていたそうで、今回も住友が何か新しい産業を興して地域の発展に寄与してくれるらしいという話をお聞きして、われわれの事業が、紋別の地域再生につながると期待して



SH120-6 グラッブル

いただいていると感じました。

今回紋別という寒冷地において、事業を開始し、安定して電力を供給するためにいろいろな工夫がされました。隣接のバイオマス発電所では、通常露出して設置されている多くの設備、ボイラーなどの施設が壁で囲まれています。チップ工場においても、多少は寒冷地対策を行ったつもりでしたが、実際昨年12月の営業運転開始以降、想定を超える問題、特に搬送ラインでのトラブルが起きました。例えば、木粉が凍結して機械が動かなくなったり、チップが凍って粘りつきコンベヤ上で固まったりとか色々ありました。頭では理解し予想していても自然の力は想像を超えて厳しいものでした。また発電所の開業に先行して、南に9キロ離れた場所に貯木場を開設しました。そこに昨年8月の試運転時には約20万㎡、通常運転開始後も平均約15万㎡の原木を貯木しています。紋別では山

からの出材は季節や天候に左右され、春先や秋の長雨時期には出材量が落ち込みます。そのため、計画的なチップ製造ができなくなるおそれがあり、また乾燥させて含水率を下げるために中間ストックヤードが必要と考えられました。今回住友建機さんからグラッブルを4台導入しましたが、この厳しい

環境下でトラブルなく、働いてくれたので本当にありがたく思っています。まだ開業して1年経過しませんが、冬場に色々なことが起き、それを何とか乗り切ったので今後は計画通りに、事故などなく安全第一で事業を運営していきたいと考えています。」

●レポート 旭川支店 近藤 浩幸



左から 浜谷 春菜さん、門田 湖雪さん、山東 社長、安井 敏 部長



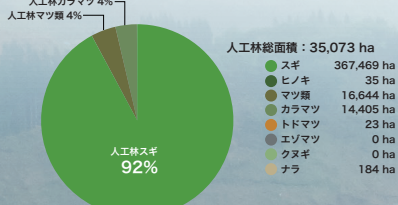
佐藤 重芳 組合長

雄勝広域森林組合

住所：秋田県湯沢市山田福島開372-5
電話：0183-72-1197
設立：平成9年



秋田県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源実態調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。[作成：国土院] [調査年度：平成24年度] [調査地域：秋田県] [調査機関：林野庁] [調査方法：航空写真・現地調査] [調査結果：http://www.rinya.maff.go.jp/kokoku/genkyou/h24/4.htm]



SH135X-6 Woody

雄勝広域森林組合は、秋田県最南端の内陸部、雄物川水系の源流に位置し、岩手県、宮城県、山形県との三県に隣接する地域である。平成9年12月に湯沢・雄勝地区の雄勝地方、院内、明治、皆瀬村、東成瀬村の5森林組合が広域合併して設立されその後、平成14年に秋の宮森林組合が参加して現在に至っている。

森林組合の規模としては、総土地面積124,905ha、内森林面積95,880ha（林野率77%）、組合員数2,730名、生産量として年間45,000～50,000㎡あり、県内でも全国的でも平均的な規模の組合である。

今回、雄勝広域森林組合の代表理事組合長であり、秋田県森林組合連合会の会長や全国森林組合連合会の代表理事会長の重責を兼務されている佐藤重芳代表理事組合長と高橋勝也参事両氏にお話を伺う時間を取っていただいた。

「雄勝広域森林組合は、私たちの生命の源である『きれいな空気』や『きれいな水』を与えてくれる森林を守る担い手として、地域に貢献することが重要と考えています。そして組合員の生活を守るためにも健全な経営をしていくこ

と、コンプライアンスを守ることをモットーに活動しています。

ただ森林組合や林業家の方々の努力にもかかわらず、雄勝だけでなく日本全国で林業を取り巻く状況は厳しいものがあります。立木価格の低迷に伴い、山林所有者の経営意欲の低下から適切な管理が行われていない森林が増加し、もっとも大切な山の循環がストップした状態になっています。人工林の高齢化への偏りを解消し、次代のために森林の再生が必要です。主伐して、その主伐地に確実に再造林する。そのことを言い続けてきましたが、やっと最近林業の未来に明るい光が見えてきたかなと感じています。国土保全は国レベルの仕事です。50年100年の将来を見据えて、ここは経済林として活用する、ここは自然林として保護すると、国が山をデザインすることが必要だと考えています。

協力業者の高齢化などから、組合として直営の作業班をつくる方針を決め、作業の安全性や効率化、何より若い労働力の定着を考えると機械化が必要で

した。今回も住友建機さんにお世話になりましたが、組合が高性能林業機械を導入したのは、平成23年のSH135X-3Bケスラーストロークハーベスタ25SHが最初でした。選定した一番の理由は、メンテナンスに關しての姿勢を評価したからです。他社は、ベースマシンとアタッチメントが別の会社でそれぞれがメンテナンスしますと話していましたが、何か責任の擦り付け合いになりそうな感じで、その点住友建機さんは、アタッチメントは別会社の製品だが、すべての製品に關して責任を持ってメンテナンスすると明言してくれたからです。実際機械の性能も素晴らしいものだと報告を受けています。またお願い出来ればと思っています。」

●レポート 秋田支店 安藤 瑞之



高橋 勝也 参事



人と自然が調和して生きる、未来のために

SH135X-6 グラッブル

SH135X-6 フェアバンチャー

SH135X-6 Woody



左から 藤原 直人さん、佐々木 光広 課長、藤野 風斗さん、熊谷 知芳さん、小沼 勇喜さん



田中 悠一 代表取締役社長
田中林業 株式会社
住所：東京都西多摩郡檜原村本宿729
電話：042-588-5813
創業 江戸時代初期



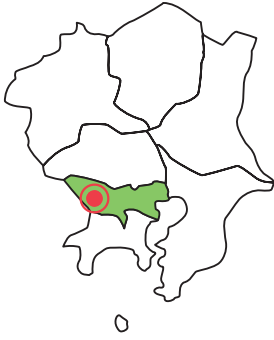
コテージの案内板



談笑庵



築150年の主屋 2階はかつて
養蚕部屋として利用されていた。



田中林業株式会社の創業家である田中家は、江戸時代の初期から現在の地にて炭焼きを生業とし、現社長で15代目を数える旧家である。時代にあわせて事業拡大し、明治時代初期から本格的に針葉樹の植林を始め、現在の所有林は、針葉樹、広葉樹をあわせて430ha。今回訪問した田中林業株式会社は、田中家の私有林の管理を目的として平成24年に法人設立された会社である。

社員は、社長と先代社長、現場作業部門4名、管理部門1名の計7名で構成されている。生産量は針葉樹1,000㎡、広葉樹500㎡の計1,500㎡程度を産出している。

主な社業として3部門あり、造林から育林、素材生産までを行うオーソドックスな森林管理業、広葉樹を飲食店などで使用する業務用の炭や薪に加工して出荷する事業。そして、管理林から産出された材をふんだんに使用したコテージとその周りの管理林を企業

や学生の研修の場として提供する事業がある。

田中社長に東京都内で長い歴史を持ち、林業に従事されて来た田中家と田中林業について、色々お話いただいた。「それまで生業だった炭焼きの仕事は、昭和20年代まで行われていました。当主自らも行っていました。他の人に山を貸して炭を焼いていただくことも多かったようです。当時は山の中に窯をつくり、周囲の木を倒して炭を焼き、出来た炭を人力で里まで下ろす。そしてまた次の場所に移り、窯をつくる…といったサイクルで行っていたそうです。

針葉樹については、当初は製材業者に立木売りをしていました。弊社が自社で素材生産を行うようになったのは昭和40年代からです。作業道は平成に入ってから本格的につけ始め、現在総延長は30,000mを越えています。16年前に私が入社した頃は、クレーン付きのトラック1台で搬出を行ってい

ました。徐々に機械化を進め、昨年SH75X-6A ケスラー 20SHを導入させていただきました。

研修等で色々な機種を見ましたし、そこで知り合った方々のアドバイスを参考にし、作業道の幅員や橋の耐荷重などの制限もある中、弊社の森には住友のケスラーが最適だと結論づけました。1年間使ってみて、大きな問題も起こらず小さな問題は想定内ですから、非常に満足しています。また、住友多摩営業所の対応の早さにはいつも関心しています。営業の方も整備の方も皆さんよく勉強しておられて林業機械に対する知識も深く、安心して任せられます。」

最後に会社のモットーについてお聞きしました。「上善水の如し。こだわりは大事ですが、頑なになってはいけません。弊社にとっては木を売ることが目的ではなく、どうやって後世に森を森として伝えていくかが使命ですから。」

●レポート 多摩営業所 野口 昌克



表皮を外側に束ねられた薪

炭焼き窯

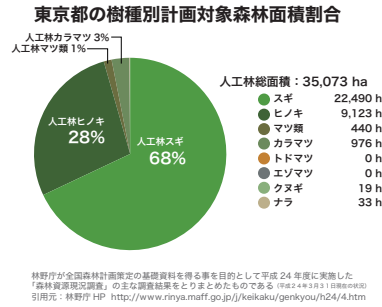


人と森と 地域をつなぐ

SH75X-6A KESLA20SH



左から 孝本 桂人さん、中村 俊貴さん、田中 社長、近藤 洋之さん

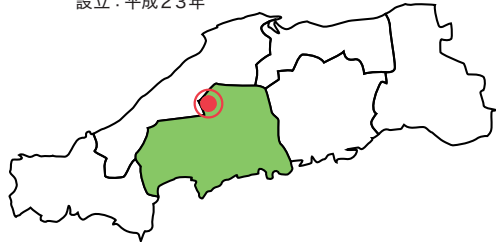




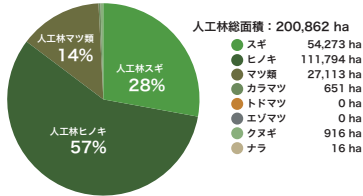
守岡 伸樹 代表取締役社長

株式会社 守岡林産

住所：広島県三次市作木町光守 143
電話：0824 - 55 - 2633
設立：平成23年



広島県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。引用元：林野庁HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>

株式会社守岡林産は広島県の北部、島根県との県境にほど近い山間の町、三次市作木町で平成23年に創業された新しい会社である。創業者である現社長、林業の申し子のような名前を持つ「守岡伸樹（もりおかしんじゅ）代表取締役」が、高校卒業後、製造業、運送業など他業種で活躍された後、当時の布野村森林組合（現、三次地方森林組合）に勤務されたのが林業の道に入る契機であった。かつて森林組合に勤務された経歴を持つ父親から、林業の現場の厳しさを説かれ反対されたが、林業はまさに自分にとっての天職だったのか、つらいはずの現場仕事が好きでしかたなかったそうだ。その後10年余り森林組合で経験を積み、独立され今年9月で創業6周年。その間いろいろな小さな苦労はあったものの社業は驚くほど順調で、従業員も増え、重機も揃い今後ますますの発展が期待される体制が整いつつある。

守岡社長に成功の秘訣を伺っても、特に意識されていることが無いのか、明確な回答は得られなかった。「創業時から周囲の人達に気にかけてもらい、援けてもらえたこと。」あと「年次目標を決めてそれを着実に達成してきたこと。たとえば、個人から法人へ。法人から、広島県の認定事業体へ。昨年10,000m弱だった生産量を今年度は15,000mにする。」等々。

インタビューの間、社長は度々「きれいな仕事を心がけている」と語られた。

「たとえば、間伐をしても、残存木に傷をつけたりしないように、山に入ったら、きれいにし出て出る。同時に機械を大切にすること。機械を大切に扱えば無理をしなくなり事故にもつながらない。山の将来を考え、自分も含め社員みんなが、ずっと続けていける林業を目指しています。林業の仕事は飽きない



若い力で林業の未来を切り拓く

SH135X-6 KETO



SH135X-6 グラッブル

SH135X-6 KETO

SH135X-6 フェラバンチャー

ですね。出会う山はみんな違った形をしていて、植わっている木の種類も違う、それを見ながらどうすれば、早くきれいな作業ができるか考えるのが楽しいですね。」

今も自ら重機を操作し先陣をきって現場作業されているという守岡社長に高性能林業機械の選定のポイントをお聞きた。「一番はメンテナンスも含めてサービス体制でしょうね。住友の山西君に絶対的な信頼を置いています。機械は従業員の安全と労力の軽減や生産性のアップを考えたら不可欠で、今後はずっと住友さんオンリーにするつもりです。」とお褒めの言葉がいただけた。

今回のインタビューで、一番感じたことは守岡社長の生まれ育った地域への愛情だ。生まれてから、今日まで何気なしに仰ぎ見てきた山や森を大切にしたい気持ちがベースにあり、日々出会ってきた人々とのふれあいを大切にしてきたから、周囲の人達を信頼し、信頼されているという強い繋がりが、現在の守岡林産の成功に結びついているのではと感じた。

●レポート 広島支店 宇野 功一



始業点検



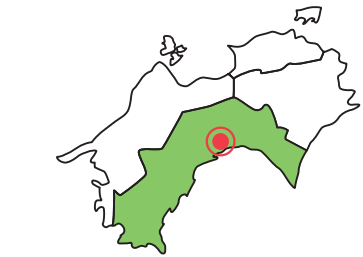
左から 福岡 信孝さん、牧原 真俊さん、守岡 社長、坂井 康太さん、東 龍司さん



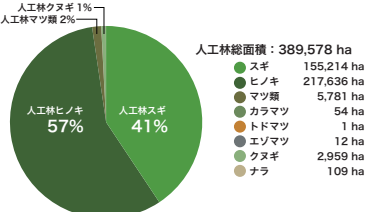
中山 登 代表取締役

株式会社 高知官材

住所：高知県高知市朝倉甲259-26
電話：088-840-3226
設立：昭和41年



高知県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源調査調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。作成：林野庁（2014年）
引用元：林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>



SH75X-3 KESLA20SH

高知県は、太平洋に面して「海の国」のイメージが強いが、県の面積に対する森林率84%で日本一、人工林率も第2位の「森の国」でもある。その高知県の中央、高知市に株式会社高知官材は、昭和41年に創業された。それから50年、現在は高知県全域と徳島県境、愛媛県の南予地方、いわば四国の南半分を営業範囲として業務展開され、本社以外に安芸市と四万十市に出張所がある。

創業当時は、社名にあるように国有林の事業などが主な業務であったが現在は民有林の仕事もかなり増加しているようだ。平成9年に三代目の社長に就任された中山社長にお話をいただいた。

「現在、作業班は基本4班。嶺北と安芸に各1班、四万十に2班で、計25名の作業員が在籍しています。2016年の年間

生産は間伐が12,000㎡、皆伐が9,000㎡ほどです。平成2年にグラップルソーを購入したのが高性能林業機械導入の最初です。その後、現場作業の安全を考え、平成6年ハーベスタを導入。現在ハーベスタ6台、グラップル15台、フォワーダを10台保有しています。以前は枝打ちなどの作業をチェーンソーで傾斜地などの足場の悪い場所で行っていましたが、労力の軽減と作業の安全性を考えると高性能林業機械は、必要と感じています。林業の従事人口の減少や作業員の高齢化を考えるとなおさらのことです。

高性能林業機械導入以後、生産量は向上し、事故も減少傾向にあります。弊社では、事業存続の第一歩は安全確保と位置付け、安全基本精神3か条、1、面倒くさがらず1、心身に余裕を持って1、冷静な判断と行動 整理・整頓・清潔・清掃 0災でいこう!よし!を作業前に唱和し一日の作



SH135X-6 KESLA25SH

業の始まりとしています。」
住友の機械が活躍している現場で、門脇清慶部長にインタビューに応じていただいた。

「住友さんのケスラーを最初に見たときは、動きがゆっくりした感じで、社長に『こんな遅い機械使い物になりませんよ』と文句をいってしまったのですが、実際使ってみると全然違いました。何ととっても測尺ですね。正確さが他社の機械と比較にならないので驚きました。本当にこの機械は最高です。ヒノキの5cmくらいの枝打ちなら楽々とできるし、ベースマシンの性能も素晴らしいです。まったく故障も無い言うことなしです。あと、整備に関して代理店サービス工場の公文重機整備が早朝より修理して、作業員が現場到着時には直っている。機械の稼働優先してくれて、技術力も高い。公文

重機さんがいるから幡多地区にたくさん機械が入っています。社長に今後は全部ケスラーに入れ替えて欲しいと頼んでいます。」

最後に、中山社長に今後住友に希望することをお聞きしたいのですが?という質問に「個人的な感想ですが、住友とい

うことではなく、林業機械が発展的な開発がなされていないイメージがあります。国家として、国土の根幹である森林の機能を永続的に維持管理していくために、もっと積極的に開発投資を進めて頂きたいと思っています。」

●レポート 四国支店 小野 健次郎



上段左から 門脇 清信さん、武田 孝典さん、吉良 猪直さん、武内 勇さん、芝 敏博さん、小森 秀美さん
下段左から 竹内 喜代実さん、門脇 清慶 部長、竹内 寛幸さん、川上 登さん、門脇 泰平さん